

世界旅打ち気分

●第56回・マジーとゴルバーンH

須田鷹雄



写真3) ハーネス版「ゴルバーンのゴール板」はわりと地味



写真2) マジー競馬場のパドック風景



写真1) マジー競馬場のゴールシーン

<https://www.instagram.com/sudatakaoshoten/>

いシステムはオーストラリア旅行で大きなストレスになる。
そして翌日の移動。ゴルバーンという街でハーネスの開催があり、1レースは13時発走。グーグルマップで見ると300キロ超で所要時間3時間45分。しかしこれは距離を法定速度ぎりぎりで割った答案で、絶対にそんな時間では着かない。5時間は見る必要があり、休息時間を考へると5時間半は欲しいとした。

ということで7時半前には、マジンを出たのだが、ここでグーグルマップの罫が。ある交差点で言われるままに右折したところ、その先が未舗装の山道。また舗装路に復帰するのかと思いや、延々と山道。ちよと遠くをカンガルーの群れがびょんびょん跳ねていき、接触事故も怖い。戻るにも切り返すスープスが無い。

半泣きになりながら必死に走つていくと、30分ほどでやつと大きい舗装路に復帰した。レンタカーだからまだいいが、自分の車だったらタイヤのダメージもこたえるところだ。

この行程の終盤は国立公園のよ
うなとびを走るのだが、オーストラリアのドライブで自然が豊かで、街のサラブレッド場は1年ほど前にジーロング競馬場とセットで紹介した。「ゴルバーンのゴール板」という駄洒落のためだけに訪問した競馬場だったが、同じ街でも今回訪問したハーネス場は全く別な場所にある。

着いてみると、ゴルバーンのスタッフは「よく小さく、しかし最近建てられたようできれいだった。オーストラリアの競馬場は近年、このような建て替えが進んでいくよう大きなリソースを割く必要がない時代のは向こうも同様。ただ、古びたスタッフをそのままにするのではなく、施設改善している」とい
う。

駅舎もなかなかよかつた。競馬の原稿なので写真は採用しなかつたが、19世紀の雰囲気をそのまま伝える駅舎で、男女別に分かれている待合室なども残っている。旅客列車は1980年代に廃止されてしまったようだが、ホームも残っている。競馬ファンと鉄道ファンはけつこう重なっている気がするのだが、後者の中でも廃線跡が好きな人にとつてはたまらない光景だろう。

駅舎もなかなかよかつた。競馬の原稿なので写真は採用しなかつたが、19世紀の雰囲気をそのまま伝える駅舎で、男女別に分かれている待合室なども残っている。旅客列車は1980年代に廃止されてしまつたようだが、ホームも残っている。競馬ファンと鉄道ファンはけつこう重なっている気がするのだが、後者の中でも廃線跡が好きな人にとつてはたまらない光景だろう。

駅舎もなかなかよかつた。競馬の原稿なので写真は採用しなかつたが、19世紀の雰囲気をそのまま伝える駅舎で、男女別に分かれている待合室なども残っている。旅客列車は1980年代に廃止されてしまつたようだが、ホームも残っている。競馬ファンと鉄道ファンはけつこう重なっている気がするのだが、後者の中でも廃線跡が好きな人にとつてはたまらない光景だろう。

駅舎もなかなかよかつた。競馬の原稿なので写真は採用しなかつたが、19世紀の雰囲気をそのまま伝える駅舎で、男女別に分かれている待合室なども残っている。旅客列車は1980年代に廃止されてしまつたようだが、ホームも残っている。競馬ファンと鉄道ファンはけつこう重なっている気がするのだが、後者の中でも廃線跡が好きな人にとつてはたまらない光景だろう。

駅舎もなかなかよかつた。競馬の原稿なので写真は採用しなかつたが、19世紀の雰囲気をそのまま伝える駅舎で、男女別に分かれている待合室なども残っている。旅客列車は1980年代に廃止されてしまつたようだが、ホームも残っている。競馬ファンと鉄道ファンはけつこう重なっている気がするのだが、後者の中でも廃線跡が好きな人にとつてはたまらない光景だろう。

駅舎もなかなかよかつた。競馬の原稿なので写真は採用しなかつたが、19世紀の雰囲気をそのまま伝える駅舎で、男女別に分かれている待合室なども残っている。旅客列車は1980年代に廃止されてしまつたようだが、ホームも残っている。競馬ファンと鉄道ファンはけつこう重なっている気がするのだが、後者の中でも廃線跡が好きな人にとつてはたまらない光景だろう。

駅舎もなかなかよかつた。競馬の原稿なので写真は採用しなかつたが、19世紀の雰囲気をそのまま伝える駅舎で、男女別に分かれている待合室なども残っている。旅客列車は1980年代に廃止されてしまつたようだが、ホームも残っている。競馬ファンと鉄道ファンはけつこう重なっている気がするのだが、後者の中でも廃線跡が好きな人にとつてはたまらない光景だろう。

一度、その競馬場最大のレースが行われる日)で集客にかなりのギヤップがあるのだが、このカントリ級の開催のようで、かなりの人が入つた。あまり盛り上がりではないなかたもののファシンジョンオンザフィールド(ベストドレッサー賞)なども行われていたし、飲食についてではフードトラックが何台も出ていた。騎手のレベルも、シドニーから遠く離れた競馬場にしてはそれなりに高いものだった。

天気もピーカンで競馬日和といえば競馬日和なのだが、暑さは尋常でなく、撮影に使っていたスマートが熱暴走するほど。主催者が用意した水のペットボトルが氷の中に漬けられしており、熱中症対策がよ

りに高いものだった。

そして行ってみたところ……「プリント業務は15時までになります」という張り紙がしてあり、暗証番号を伝えるメールも来ていない。「マジーで車中泊か?」とパーソクになつたが、最終的にはホテルの人と電話がつながって、無事カギを取り出すことができた。この「入いな

るは評価に値する。ぱつと思いつくところではSA州の「アーラー(サラブレッド)やNSWだとバーサーストのハーネス場のほうなども似たような建物になっており、現在はこれで十分だろう。

「ゴルバーンのハーネスで印象には10分おきくらいに見かけるじ」とのドライブではそこそこ大きさ)の死体にも遭遇した……。

気を取り直してゴルバーンの街のサラブレッド場は1年ほど前にジーロング競馬場とセットで紹介した。「ゴルバーンのゴール板」という駄洒落のためだけに訪問した競馬場だったが、同じ街でも今回訪問したハーネス場は全く別な場所にある。

着いてみると、ゴルバーンのスタッフは「よく小さく、しかし最近建てられたようできれいだった。オーストラリアの競馬場は近年、このような建て替えが進んでいるようだ。場外馬券の時代を通り越してネット投票のシェアが増し、本場に大きなリソースを割く必要がない時代のは向こうも同様。ただ、古びたスタッフをそのままにするのではなく、施設改善している」とい
う。

オーストラリアだからバーはある。ちろんあるが、食事もしっかりしたものを作っていた。定番のチキンパルマ(薄い鶏肉のカツ)も「マッシュルーム」がかけられておりなかなか美味しい。この「じんまり」いつも良い感じの開催は日本の公営競技にとっても参考になる部分があるのではないかと思つ。